校長室から **ひがしなら通心**

（Ｈ３０年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．４７

平成３１年１月１５日（火）発行

冬休みの宿題（作文）より

とてもいい作文を、担任の先生が持ってきてくれました。ここに紹介します。

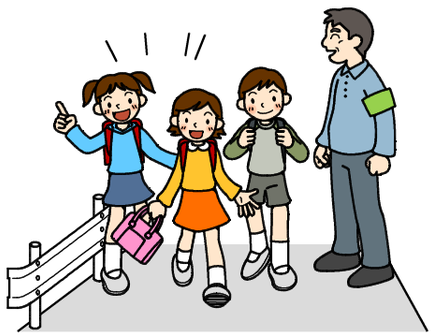
題名　ボランティア

私が今、そんけいしている人は、「ボランティア」の方々です。
その中でも私の一番身近で活動している方は、毎日朝と下校時に旗を持って見守ってくださっている方です。

一年生の時から毎日見ていたので、何とも思ってなかったけれど高学年になるにつれてすごい人なんだなぁと思うようになりました。暑い夏も寒い冬も大雨の日も毎日かかさず私たちを見守ってくれています。

けれど、そんな優しい方々なのに、あいさつを無視する人もいます。
それを見て私は、悲しくなります。なので今の私にできる事は元気いっぱいあいさつすることです。

旗を持って見守ってくださる方は年配の方が多いので時々、体調が悪いのに無理していないかな･･･と心配になることがあります。
無理をせず、いつまでも元気で私たちを見守り続けてほしいです。



挑戦し続けることの大切さ

サビを防いだり、機械の動きをよくしたりする潤滑剤として、世界のベストセラーになっている製品があります。宇宙ロケット専用の潤滑剤としてノーム・ラーソンさんが開発したその製品の名前はWD－４０といいます。この４０という数字は、ラーソンさんが宇宙ロケットの専門家から求められる厳しい基準をクリアするために、何回も何回も試作を重ね、４０回目にようやく完成したことを表す数字だそうです。

昨年、京都大学特別教授の本庶 佑（ほんじょ たすく）先生が日本人として２年ぶり、２６人目となるノーベル賞を受賞されました。本来体に入った異物を攻撃するはずの免疫細胞が、がん細胞を攻撃しなくなってしまう現象の理由を突き止め、それを解除する方法を発見したことが受賞理由です。発見はその後、免疫治療薬「オプジーボ」として実用化され、がん免疫療法という新しい治療法の時代が切り拓かれました。

しかし、ここに至る道は決して順調ではありませんでした。１９９２年に発見のもととなる現象を確認しましたが、具体的なことがわからない状況が長く続きます。それでもあきらめず、実験方法を工夫し続け、１０年後にようやく解明できたのです。人への応用にも取りかかりましたが、当時がんの免疫療法は信じてもらえず、臨床試験にこぎつけるまで、さらに４年の歳月を必要としました。

本庶先生は以前新聞社のインタビューに応えて、若い人たちにメッセージを送っています。「人生は一度しかないからチャレンジしてほしい。１回や２回失敗したっていい。失敗してもあきらめずに継続すること。やる以上は全力で集中してやる。ずっとやっているとそのうちに自分に自信がでてきて、道は拓けていく。」と。

新しい年を迎え「これを頑張ろう」と心に誓った目標がみなさん一人ひとりにあると思います。１回や２回うまくいかなかったからといってあきらめないでください。挑戦を繰り返してください。挑戦しなければ、取り組み続けなければ達成することは決してないのですから。みなさんが自分の目標達成に向けて挑戦し続ける１年であってほしいと願っています。

ひ	とつにみんなでまとまろう！	あ	いさつができる子
が	くりょくと体力をのばそう！	い	っしょうけんめい勉強する子
し	っかりせいかつしよう！	う	んどうが好きな子
な	かよく友だちとすごそう！	え	がおでやさしい子
ら	んらん夢に向かう東奈良っ子！	お	そうじをがんばる子

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ルール４　人の意見や考え方を尊重しよう

話し合いをするときには、それぞれが自由に意見を言いあえるようにしよう。何があっても、人の意見を笑ったり、からかったりしてはいけない。

●言いたいことがあるときは、こんな言い方をしよう。「〇〇さんの意見に賛成です。ぼくの考えをつけ加えるなら・・・」「〇〇くんの意見には賛成できません。いい点をついていると思うのですが・・・」相手に自分の考えはまちがっていると思わせないように、礼儀正しく意見を言おう。